

平成21年度 文部科学省委託事業

総合的な放課後対策推進のための調査研究事業報告書

放課後活動支援モデル事業報告書

放課後コーディネーターによる、継続的「放課後弟子入りプログラム」の実施

特定非営利活動法人 放課後 NPO アフタースクール

はじめに

“放課後弟子入りプログラム”で豊かな放課後の推進を

特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール

我々が今回、「総合的な放課後対策推進のための調査研究」事業として、小学校高学年向けを対象とした効果的な取り組み、または小学校高学年が関わる効果的な取り組みを選んだ理由は、アメリカの放課後の事例を見たのがキッカケでした。

1990年代以降に始まったアメリカの放課後改革。主役は放課後を専門にする「放課後NPO」です。アメリカではこの「放課後NPO」が行政・企業などと手を組み、豊かな放課後プログラムを毎日開催しています。これらの楽しく豊かなプログラムを行うことで、「少年犯罪」が減ったり、「学習意欲」や「学力」が高まったりといった多くの教育的効果を生みました。

アメリカで放課後改革が始まった理由は2つあります。1つ目は「安全性」の問題です。アメリカでは子どもたちが犯罪を犯す時間帯が平日の15時から18時がピークです。一方で子どもたちが犯罪に巻き込まれるのも、学校が終わった直後、つまり放課後の時間が他のどの時間よりも多いそうです。2つ目は「新たな教育の場」として期待されているためです。アメリカの大きな社会問題の1つでもある「貧富の差」を解消する意味で放課後が注目されたということもあります。

こうしてアメリカでは放課後の研究が進んでいくわけですが、全米からの放課後プログラムの成功談やそれらを裏付ける多くのデータも、放課後への注目度をいっそう高めています。放課後プログラムのおかげで「子どもの成績が上がった」「学校での態度も良くなった」「出席率が上がった」などの報告があげられています。また、親たちへのアンケートでも「放課後プログラムのおかげで子どもたちがイキイキしてきた。私も安心して預けられるので仕事に集中できる」といった前向きな回答が多く、ある調査では「もし子どもたち全員を放課後プログラムに参加するために年間100ドルの増税があったら？」という質問に対して、7割近くの有権者が「賛成」と回答しました。また同じ調査では9割の有権者が「放課後を支援する政治家に投票する」と答えています。

一方日本では、数年前に放課後に子どもが襲われる事件が多発したのをきっかけに、安全性を考慮して外で遊ぶ子がめっきり減ったように思います。子どもたちの放課後の過ごし方、小学校高学年は特に、もっぱら「塾」と室内での「ゲーム」にとって変わられたと感じている方は多いのではないのでしょうか。

このような放課後の変化の中で、今回この調査を通し、子どもたち、特に小学校高学年に対して塾やゲーム以外に選択肢を与え、より豊かな放課後にしていけるように尽力してみようと考えました。それが“放課後弟子入りプログラム”です。

平成 21 年 3 月 20 日

目次

第一章 日本の放課後とアメリカの放課後

1、全国的に見た子どもの放課後の変化

2、アメリカの放課後

- (1)ボストン 放課後 NPO『シティズン・スクールズ』
- (2)ロサンゼルス NPO『LA's BEST』

第二章 本事業の具体的内容

1、「放課後弟子入りプログラム」について

- (1)目的
- (2)背景・必要性
- (3)「放課後弟子入りプログラム」にした理由とポイント

2、「放課後弟子入りプログラム」の詳細

- (1)プログラム実施スケジュール
- (2)各プログラム内容の詳細
 - ①FC 東京さんのサッカープログラム
 - ②日本初の女性狂言師による狂言入門
 - ③熱狂のマンガプログラム
 - ④いたずら研究所
 - ⑤マジック特訓
 - ⑥大会を目指せ！ヨーヨープログラム
 - ⑦プロアナウンサー体験プログラム
 - ⑧放課後キャラクターコンテスト
- (3)各プログラムで使用した資料および配布物
 - ①大会を目指せ！ヨーヨープログラム
 - ②プロアナウンサー体験プログラム
 - ③放課後キャラクターコンテスト

第三章 効果・成果と考察

1、効果・成果

- (1)高学年の参加がゼロから数名へ
- (2)子どもからの感想文、現場スタッフからのヒアリングなど
- (3)子どもの変化(エピソード)
- (4)メディア

2、効果が出た理由

3、課題

第一章 日本の放課後とアメリカの放課後

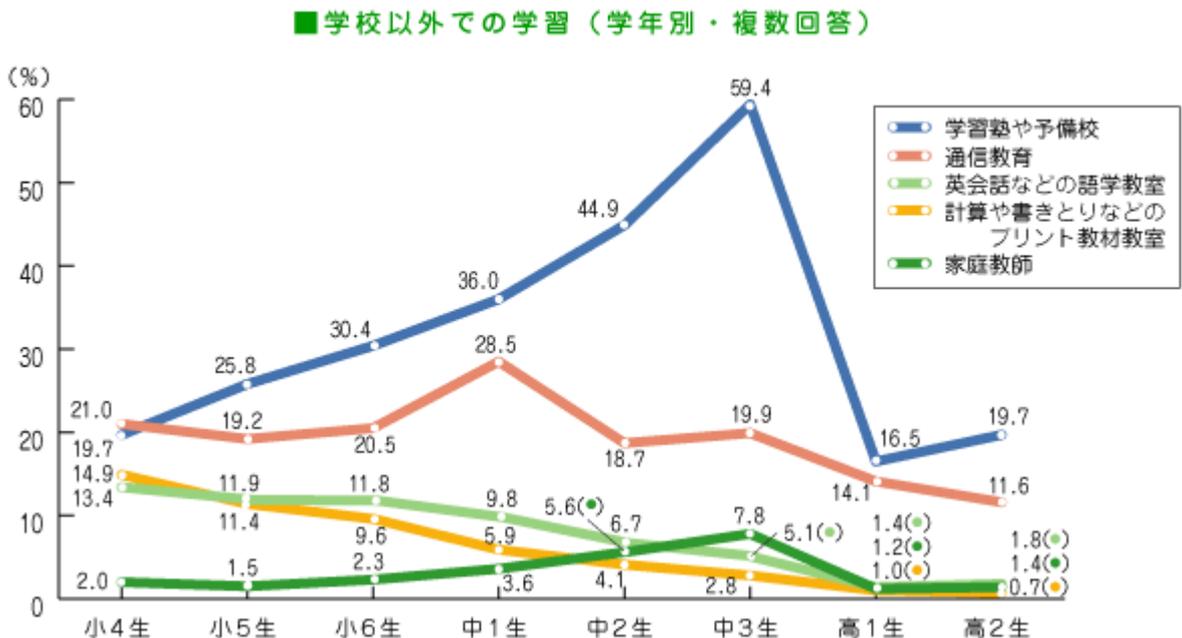
1. 全国的に見た子どもの放課後の変化

以下はサントリー次世代研究所が2007年3月に行ったアンケート、「現代親子調査」です。

今の放課後	昔の放課後
家で遊ぶのがいいこと	外で遊ぶのがいいこと
“放課後の遊びは?”(小学生) 1位:自分の家で(51.9%) 2位:外で(50.5%) 3位:友達の家で(37.2%)	
少人数で過ごす(同学年中心)	大勢で過ごす(異学年も交流)
“放課後に誰と遊ぶか?”(小中学生) 「1人で遊ぶ」:小学生(36.2%) 中学生(44.0%)	
忙しい放課後	ひまをつぶす放課後
“毎日やることあって忙しいか?” 「そう思う」:小学生(54.6%) 中学生(69.5%)	
アポ入れて遊ぶ	何となく集まる
“約束せずに遊びに行くことはあるか?” 「ない」:小学生(87.3%) 中学生(91.9%)	

この結果から、最近の子どもたちの放課後は「外から家へ」、「大勢からひとりへ」、そしてとにかく習い事や塾で忙しい小学生というものが見えてきます。

また、こんなデータもあります。



「第1回子ども生活実態基本調査報告書」Benesse 教育研究開発センター(2005)

これらのデータを見ていると、いま小学校高学年の放課後は「塾」と「ゲーム」が主な過ごし方だと考えられます。

良く聞く話として、「スケジュール帳持っている小学生や公園で携帯ゲームする子どもたちをよく見ます」といったものもありますし、また、「世界的に見て日本ほどバーチャルな子どもはいない」という有識者の方の意見もあります。

2、アメリカの放課後

「はじめに」でも書いたように、アメリカでは以下のような放課後を専門とした NPO が発足し、放課後改革に乗り出しています。

(1)ボストン 放課後 NPO『シティズン・スクールズ』

● 1998年、ボストン市のメニーノ市長が、「ボストン市内の1万6000人の小中学生が何らかの放課後プログラムに参加しているが、少なくとも同数の子供たちが、放課後プログラムに参加したくてもできずにいる」という結果を受け、放課後プログラムに持続可能な資金提供を行うことを目的にした『ボストン放課後パートナーシップ』を設立。

市・学校・NPO・企業が協力しあい、5年で25億円をつぎ込むというボストン市の歴史のなかでも史上最大の共同事業をまとめた。こうしてボストン市の放課後プログラム作りが始まり、今に至っている。

● すでに500種類以上のプログラムがある。これらプログラムの核は「弟子入り制度」である。市民が先生になって、これまでやってきた趣味や仕事を、NPO の仲立ちで、9歳～14歳までの子供たちに伝えていく。1グループ8人くらいで、3ヶ月で1つのプログラムが終了するが、最後には『WOW!』というタイトルの大きな発表会が行われるのが特徴。

この『WOW!』には、子どもたちの成長っぷりを見逃すまいとやってくる両親や先生たちに他のプログラムのスタッフ、市民先生、一般市民も訪れる。尚、ボランティアを志望する人達は1000人以上おり、人数はまだ増え続けている。

● ボランティアの中には、裁判官の方なども市民先生になっていて、その裁判のやり方も、放課後プログラムになる。例えばあるおもちゃ企業同士の対決、ということで、開発をめぐる「模擬裁判」を設定して、3ヵ月後に本物の裁判所を借りて判決言い渡しを行う。9歳～14歳というと、本物の裁判所などめったに行く場所ではないから、実践型、体験型ということで、かなり盛り上がり、毎年マスコミに取り上げられるなど最も注目されている。現職の裁判官の市民先生もかなり忙しいが、子供たちから何か質問があれば電子メールなどですぐに応じる。その他のサポートは放課後 NPO のスタッフ達が担当する。

(2)ロサンゼルス NPO『LA's BEST』

● 対象：幼稚園児～小学6年

● 1988年、当時のロサンゼルス市長、トム・ブラッドリー氏のリーダーシップで始まる。最初は10校で始まったが今、このプログラムを受け入れている学校は107校と、10倍以上に膨れ上がった。

● 月曜日から木曜日までは以下の内容で放課後プログラムが行われる。

2:30～ 授業終了後、子供たち集合。出席確認。おやつタイム。

3:00～ 宿題タイム

4:00～ エンリッチメント・タイム

4:45～ クラブ活動

5:30～ お迎えタイム

エンリッチメント・タイムには、遊びの要素を色濃く取り入れた、算数・国語・科学・健康・芸術・音楽・ダンスの授業を、クラブ活動にはさらに遊びの要素を増したスポーツ・音楽・チアリーディング・チェスなど様々なプログラムを行う。

● 金曜日だけは決められた時間割はなく、LA's BEST の目玉商品、「特別プログラム」が待っている。

内容は、

(イ)日米美術館への遠足などの「教育関連遠足」

(ロ)大リーグのロサンゼルス・ドジャースの野球教室などの「スポーツイベント」

(ハ)ディズニーランドなどへの「遊びの遠足」

(ニ)ミュージカル『ライオンキング』を楽しむなどの「観劇遠足」

(ホ)アフリカ系アメリカ人のパレードへの参加などの「地域のイベント」

である。

● パンフレットには、毎週1回、子供達と放課後プログラムを行うパートナー企業や団体の名前がずらっと掲載されている。NASA や、ドジャースタジアム、スターバックス、ソニースタジオ、ディズニーランド、バンク・オブ・アメリカ、ユニバーサルスタジオ、ドリームワークスなど、そうそうたる一流企業が並んでいる。

こうしたアメリカの放課後改革を参考に、日本でも「塾」や「ゲーム」に変わる魅力的な放課後プログラム、“放課後弟子入りプログラム”を開催することとしました。データからも見られるように、日本の放課後で失われつつある「リアルな体験」や「予期せぬ体験」が大切だと考え、このプログラムを開発しようと考えたのです。

第二章 本事業の具体的内容

1、「放課後弟子入りプログラム」について

(1)目的

小学校高学年の子どもにとって魅力的な放課後を作り出すために、2つのことを掲げました。

- ①さまざまな特技やキャリアを持った大人(市民先生)を放課後コーディネーターである我々放課後NPOアフタースクールが掘り起こし、市民先生を招いて「放課後プログラム」として子どもたちに提供することで、子どもたちにとって魅力的な大人に弟子入りできる機会を創り出す。
- ②プログラムは単発ものではなく、数回にわたる継続的プログラムで行い、最後に「発表の場」を設けることで、特に小学校高学年の子どもたちにとってひとつのことを掘り下げ、深い達成感を感じることを経験してもらうことを狙いとする。

(2)背景・必要性

地域や企業、団体の大人たちと接していると「子どもたちに何か伝えたい」「何か教えたい」と思っている方々は意外と多いのですが、そんな大人と子どもたちをつなぐ役が今まではそれほど多くありませんでした。また放課後子どもを預かる現場スタッフは地域、団体、企業との接点が少なく、交渉する時間もなかなか取れないため、質の高いプログラムを開催するのは難しい部分がありました。我々がその大人(地域や団体、企業)と子どもをつなぐ役割をし、子ども目線でプログラムに落とし込むことで、より楽しく豊かな子どもたちの放課後を創り出すことができ、また学校、地域、行政とのパイプ役を果たすことで効率的な情報交換やスムーズな事業展開を推進できます。また、現場スタッフのノウハウの不足や負担から単発的で簡易なプログラムに終わることが多い放課後のイベントを、我々がコーディネートすることで継続的なホンモノに触れることのできるプログラムにし、小学校高学年の子どもにとってより満足度の高いプログラムとすることが可能となります。

(3)「放課後弟子入りプログラム」にした理由とポイント

- ・子どもたちの放課後の過ごし方に、「塾」「ゲーム」以外の過ごす方法・選択肢を与えます。1週間のうちせめて1日(水曜日)くらいは塾やゲームをしない日、とします。
- ・さまざまな種類のプログラムを用意することで、自分に向いている、得意、または好きなことや分野を気づく機会とします。また学習等不得手な子どもたちの新しい居場所としても考えられます。
- ・たくさんのカッコイイ大人と出会える機会を作り出し、子どもたち、特に小学校高学年のモチベーションを上げます。
- ・体験プログラムを中心に行うことで、子どもたちが手を動かしたりしながら五感を活用しながら学ぶことで、学びの確かな一歩を踏み出すことができます。また、学校で習得する学習知識との関連づけを自ら行うことができます。
- ・プログラムはなるべく単発ではなく継続的なプログラムとし、最後に何らかの発表を行うことで子どもたちに達成感を与え、何かが子どもたちに残る内容とします。

2、「放課後弟子入りプログラム」の詳細

(1)プログラム実施スケジュール

日時	時間	場所	内容
6/10(水)	14:30~16:30	世田谷区立松原小学校	FC東京のサッカープログラム
6/17(水)	14:30~16:30	世田谷区立代沢小学校	日本初の女性狂言師による狂言入門①
6/24(水)	14:30~16:30	世田谷区立代沢小学校	日本初の女性狂言師による狂言入門②
7/1(水)	15:00~17:00	世田谷区立代田小学校	熱狂のマンガプログラム①
7/7(火)	16:00~18:30	横浜市西区内フリースペースみなみ	いたずら研究所①
7/8(水)	16:00~18:30	横浜市西区内フリースペースみなみ	いたずら研究所①
7/8(水)	15:00~17:00	世田谷区立代田小学校	熱狂のマンガプログラム②
7/14(火)	16:00~18:30	横浜市西区内フリースペースみなみ	いたずら研究所②
7/15(水)	16:00~18:30	横浜市西区内フリースペースみなみ	いたずら研究所②
10/5(月)	15:15~16:45	港区赤坂子ども中高生プラザ	マジック特訓①
10/7(水)	14:00~16:00	世田谷区立池之上小学校	大会を目指せ！ヨーヨープログラム①
10/29(木)	15:30~16:45	港区赤坂子ども中高生プラザ	マジック特訓②
11/2(月)	15:15~16:45	港区赤坂子ども中高生プラザ	マジック特訓③
11/8(日)	13:30~15:00	港区赤坂子ども中高生プラザ	マジック特訓④
11/18(水)	15:00~17:00	世田谷区立池之上小学校	大会を目指せ！ヨーヨープログラム②
11/25(水)	15:00~17:00	世田谷区立池之上小学校	アナウンサー体験プログラム①
11/25(水)	14:45~16:30	世田谷区立代田小学校	FC東京のサッカープログラム
12/2(水)	15:00~17:00	世田谷区立池之上小学校	アナウンサー体験プログラム②
12/2(水)	14:00~16:00	世田谷区立花見堂小学校	FC東京のサッカープログラム
12/16(水)	15:00~17:00	世田谷区立池之上小学校	大会を目指せ！ヨーヨープログラム③
1/13(水)	15:00~16:30	世田谷区立池之上小学校	三宅藤九郎さんの狂言教室①
1/20(水)	14:30~16:30	世田谷区立池之上小学校	三宅藤九郎さんの狂言教室②
2/10(水)	14:30~16:00	世田谷区立花見堂小学校	放課後キャラクターコンテスト①
2/17(水)	14:30~16:00	世田谷区立花見堂小学校	放課後キャラクターコンテスト②
2/24(水)	14:30~16:00	世田谷区立花見堂小学校	放課後キャラクターコンテスト③

(2)各プログラム内容の詳細

①FC 東京さんのサッカープログラム（講師：FC 東京プロコーチ 久保田さんほか）

・内容：プロのサッカーコーチに弟子入り

A:ウォーミングアップ

FC 東京さんの、小さい子ども女の子も皆が楽しめるゲームを使つてのウォーミングアップ。その内容の多さにも驚きます。



B: 鬼がシツポを取るというゲーム

その場をクルクル回りながらシツポをつけた子を守ります。



C: 攻撃と守備に分かれて、1対1
攻撃は、後ろから守備の股を抜いてスタート！



D 各チームに分かれてのゲーム
コーチも混ざってのゲームです！



E: コーチ陣 vs 高学年
念願の対決です。みんな好きな方のチームを応援します。



F: サイン会
最後はうれしいサイン会です。



②日本初の女性狂言師による狂言入門（講師：和泉流 十世 三宅藤九郎さん）

・内容：日本人初、女性狂言師に弟子入り

（第1回）

A: 狂言、および和泉流の説明

こちら藤九郎さん。とてもステキな方です。狂言は2種類あり、今回は「和泉流」という狂言を学んでいきます。



三宅藤九郎さんは十世です。一世から九世の方々が代々、守り伝えてきたものであり、名前だそうです。狂言は室町時代から600年続いてきた伝統芸能です。お師匠さんが代々守り伝えてきた、すごく歴史あるものなのです。

ちなみに藤九郎さんの初舞台は3歳。みんなより若いときから舞台上に立っていることに一同ビックリ！

B: 礼の仕方、立ち振る舞いを学ぶ

伝統芸能ならではの「礼に始まり礼に終わる」みんな様になっています。右は「立ち方」の練習。



C: お題「兎」を謡う

題のとおり、兎についてのお話なのですが、うたの最後に「うさぎ————っ」と締めくくられます。

藤九郎さんがまずお手本でうたったのですが、その瞬間、空気が震えました。これがプロの技。写真のとおり、みんな固まりました。



D:プロの技を見る

藤九郎さんの実演、謡と舞。立ち振る舞いが“凜”としていて、子どもたちも尊敬の眼差しです。



もう1回サービスで、扇を開いた「若松」という小舞。
抑揚があるうたい方も狂言の特徴です。



「今できる一番をやってください。姿勢だったら今できる一番イイ姿勢をとる。次もそう。そうするとどんどん良くなっていきます。」「1回で集中してピシッとやる。1回でできれば稽古は短時間でよい。私も稽古のときによく言われたことです。」と先生からのお話。

参加した大人もピシッとしてしまう雰囲気がありました。



E:おさらい

最後に、今日練習した「兎」をみんなであうたい、終了しました。みんな、飲み込みが早いです。しっかり声も出ていました。うたはもちろん、礼、立ち方、座り方もマスターしていました。

(第2回)

A:前回のおさらい1(立ち振る舞い)

まずは座る姿勢から。ピンとしていてカッコイイですね。



B:前回のおさらい2(小謡「兎」)

先生のお召し物は今日もステキです。

姿勢、立ち方、座り方を何度も練習しましたが、その中で「息の吸い方・吐き方」も先生は教えてくださいました。座るときに「ふーっ」と吐く。これができるだけで立ち振る舞いがまた変わってくるから不思議です。



C:「舞」

今日は先生を真似て、「舞」も行いました。これぞ狂言！



D:発表に向けての練習

本当の舞台上で謡うつつもりで、入場から謡までしっかり練習します。



E:いよいよ発表

5人1組に分かれて舞台上に立ち、みんなの前で自分達だけで話します。



F:最後のおさらい

最後にもう一度、「兎」をみんなで。舞台上に一度立ったみんなは、今日一番のイイ声を出してくれました。先生の声が聞こえないくらいに。周りで見っていた保護者やスタッフから大きな拍手が。



G:サイン会



③熱狂のマンガプログラム（講師:オシャレ魔女ラブandベリー作者 溝口涼子さん）

・内容:プロの漫画家さんに弟子入り

（第1回）

A:先生自己紹介、プロの技

先生が何やらいきなりホワイトボードに描き始めます。

あっという間にラブちゃんとベリーちゃんの完成です！「すごい！ホンモノだ！！」と、あちこちから拍手 & 歓声
が起きました。



ご覧の通り、子どもたちの目は完全にホワイトボードに釘付けです。



B: 人物を描いてみる1(顔)

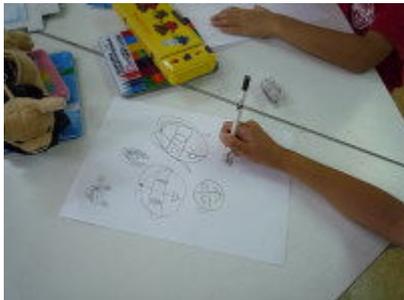
今日は輪郭、髪の毛、目を中心に教えてもらうことになりました。

まずは輪郭と正面、左、右の顔の向きから。顔をたまご型にし、バランスを考えるだけで上手に横顔が書けるんです！髪の毛も、つむじを意識して頭のとっぺんから書くだけでとっても自然に表現できるのです。

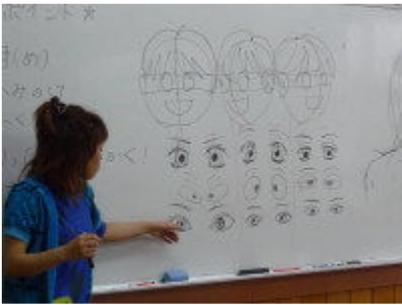
う〜ん、なるほど、大人も一緒に学べますね。



ポイントを思い出しながら、さっそく皆で書いてみます。



続いて、問題の目です。先生のマンガで書いている目、もう少し簡易に表現した目、リクエストがあった人間の目など、目だけで随分印象が変わります。



先生も、一人ひとりにコメントしながら、丁寧にポイントを教えてください。
「先生、チェックお願いします！」と、自らアドバイスを求める子どもも。



C:人物を描いてみる2(全身)

ちなみに、洋服のシワは、シワのない突っ張っている部分とシワの寄っている部分、メリハリをつけることがポイントです。



D:似顔絵プレゼント争奪戦

ジャンケン対決をして勝ち残った子が、似顔絵をゲットできることに。白熱のジャンケンです！



先生が勝った子の似顔絵を描き始めます。子どもたちはシーンとして見守っています。



今日の勝者は男の子だったのですが、頼んで見せてもらおうと、こんなに素敵に！！
恥ずかしがりながらも「家族に自慢する！」ととっても喜んでいました。



E:サイン会

色鉛筆でのカラフルなサインに子どもたちは大喜びでした！



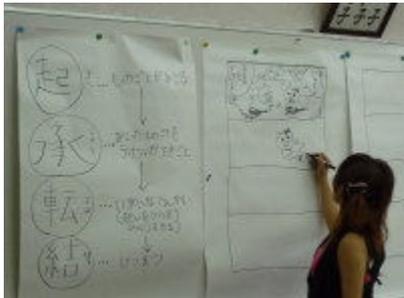
(第2回)

A:何を教えて欲しいか、多数決をとる

『4コマ漫画』か『将来のマンガの表紙』の描き方で、教えて欲しい方を多数決！
子どもたちの多数決の結果、ストーリーを考えて『4コママンガ』描くことになりました！

B:「起・承・転・結」を学ぶ

先生が、サラサラと書き始めました。子どもたちはまたもや釘付けです。



出来あがったのはこちらの4コママンガ。左が起承転結に則った良い例、右が良くない例です。
左はストーリーだけでなく、絵や文字にも動きがあり、分かりやすい表現になっていますが、右はメリハリのないストーリーになっています。左のマンガに子どもたちは大爆笑！起承転結の意味も何となく掴めたようです。



C:自分で4コマ漫画を作ってみる

さて、さっそく各自で4コマ漫画づくりです。今日は絵のタッチはこだわらず、ストーリーにこだわります。特に男の子は興味津々のようです。ストーリーを考えるのは難しいかな??と、思いきや、意外にスラスラ筆が進みます!



でも、やっぱり何を書いて良いか分からない子どもたちには、先生が特別キャラクターを用意してくれました。にこちゃん、おこりんぼくん、こわい犬などです。

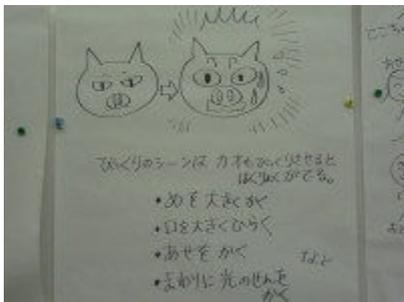


今日も一人ひとり先生にアドバイスをもらいながら、自分でストーリーを考えます。1コマできることに、見せ合いながら楽しそうに取り組む姿も。



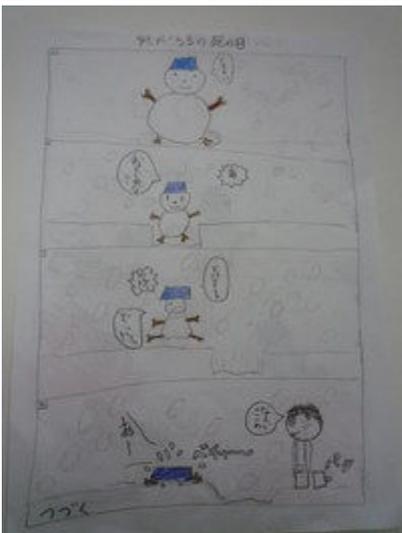
D:さらに、書く上でのポイントを教わる

少し手を加えるだけで、伝えられることが増えるのですね。



E:作品の発表会

出来あがった作品は、先生からポイントを交えながら皆に発表されました。自分自身のことだったり、スポーツの話だったり、UFOが出てきたり、十人十色の面白いストーリーがたくさんです。



最初は分からなかった起承転結も、コツが掴めたようで「おうちでも書いてみる！」と張り切っている子どももいました。

F: 自分たちの書いた作品に先生のサイン、そして似顔絵プレゼント
先生が子どもたちの作品1つ1つにサインをしてくれました。



そしてやっぱり、「どうしても!!!」ということで、激戦を勝ち抜いた代表者に似顔絵のプレゼントも！（水色の子がモデルです）緊張の面持ちで、カチカチになっていました。



最後に先生から子どもたちにとっておきのプレゼント。ラブちゃんとベリーちゃんです。



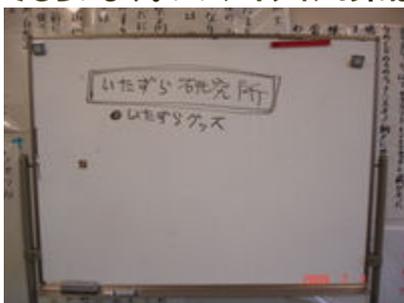
④いたずら研究所（講師：ザリガニワークスさん）

・内容：おもちゃづくりのプロに弟子入り

（第1回）

A: ザリガニワークスさんのやっているお仕事紹介

いたずら研究所、開設。普段ザリガニワークスさんが仕事としている、いたずらおもちゃ開発を子どもたちにやってもらいます。いいアイデアあれば、商品化も夢じゃない！？



大学の同級生というお二人。
これじゃないロボは2008年度グッドデザイン賞を受賞しました。



B:おもちゃを見て、遊んでみる
ザリガニさんが作ったおもちゃ、公開です。



はしるゴキブリ。



100円が落ちている！（シールですが・・・）



こんなリアルなアリと溶けかけの氷も。



C:自由にアイデアを出してみる
とにかく自由な発想で、いたずらに使うおもちゃを考えます。



(第2回)

A: アイディア出し(前回の続き)、発表用に紙に絵などを書いてみる

約50人の子どもたちから集まったいたずらおもちゃのアイディアはなんと100以上!

中にはこの一週間でずっと考えていたという子も。子どもたちはアイディアの宝庫なのです。

また前回プログラムを見学にいっしょだった株式会社タカラトミーアーツの社員の方は、「かなりの衝撃を受けた」とのご感想をいただきました。

B: 作品発表会

3作品考えてくれた子。

特徴は「タイトル」がついていること。ネーミングもしっかり考えています。



こちらは超大作。11作品も考えてくれました。



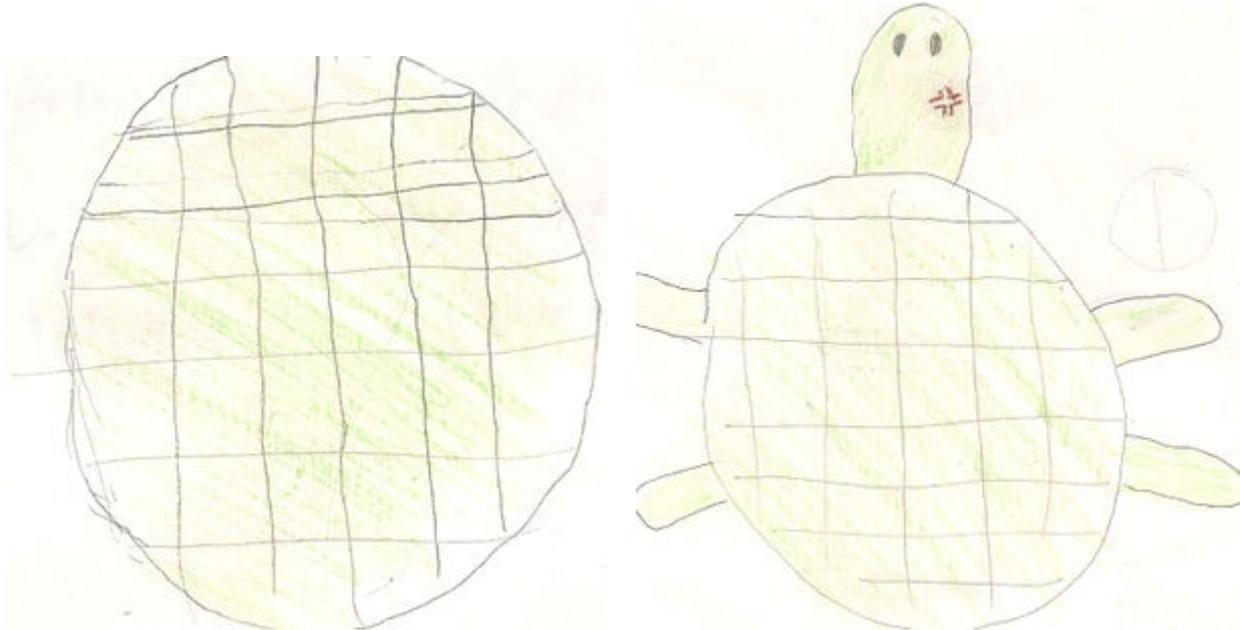
こちらは高学年の作品。「悪口スイッチ」ボタンを押すといろいろな悪口を言うおもちゃも。



こちらはわかりやすい図で変化を説明しています。トイレのボタンを押すと・・・手と血がポタポタと出てくる作品。



こちらはメロンパン。ついてるボタンを押すと・・・なんとカメさんに！ ちょっと怒っているカメです。



C: ザリガニワークスさんに作品を贈呈

最後に子どもたちの作品をまとめて、ザリガニワークスさんに預けます。

ザリガニワークスさんも作品数の多さにビックリ。

さらにサプライズプレゼントで子どもたちからのメッセージも一緒にお渡しし、感謝しておりました。

⑤マジック特訓（講師：田口智也さん、新田まりえさん）

・内容：プロのマジシャンに弟子入り

(第1回)

A:オリエンテーション、先生紹介

今日はマジックのすごさと楽しさを知ってもらおうと、マジシャンお二人に来ていただきました。左が田口さん、右が新田さんです。雰囲気あります。



今日のマジック体験を通じて、文化祭に出たい子5名が当日マジックに挑戦します！



B:プロの技を見る

まずは新田さんのマジック、ノーカットでどうぞ。子どもたちははじめ、「磁石だ磁石！」「マジックテープ？」などと騒いでいましたが、ボールが浮いた瞬間、その説は消えました…。タネは謎に包まれたままです。



C:プロからの技の伝授

続いて田口さんがトランプのマジックを子どもたちに1つ伝授。お客さんが引いたカードを当てるといもの。



D:みんなで練習、マジックを自分のモノにする

短い間でマスターする子も。ただ単に選んでもらって当てるといだけでなく、さりげなくタネを入れ込むコツや相手とのトークなど、工夫する点があります。



D:再びプロの技を披露

そして最後にすごいマジックでさらに盛り上がります。

鳩！！ 手から出てきました！！しかも飛んでマジシャンのところに戻ります！！



さらにトランプが次々と！！華麗な手さばきです。



(第2、3回)

A:マジック発表会への出場を募る

前回のマジックプログラムを経て、本気で練習しマジック発表会への挑戦を表明する子どもたちを募ります。

B:先生のお手本マジック

そしてマジックプログラムにて発表会に向けた特訓が開始です！



C:それぞれのパートに分かれ、練習

新田先生もやさしくマンツーマンで教えてくれます。



まずは先生の見本を見てみます。



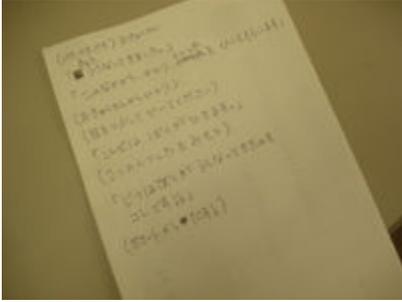
新聞紙と水を使った難しいマジックも。



たくさんのハンカチを使った華々しいマジックもあります。



当日の段取りや台詞を原稿に書いている子も。アンチョコですね。



こちらは一番難易度が高く、2名で協力して行うリングマジック。旗も使います。



(第4回)

A: 発表会準備

当日の原稿を考え直して書きとめ、最後の準備です。



また、仕込みを再確認している子も。



本番に向けて練習を念入りにやっておりました。

非常に真剣です。予行練習も何回も行っていました。



B:発表会本番

まずはカラフルなハンカチが次々と！

トップバッターは緊張しますが、会場は「おお～」と沸きます。



つぎに難しい新聞のマジック。新聞に水を入れ、その水が新聞紙から出てきてワインと変化するマジックです！



つぎは靴下当てマジック。まずはマジシャンが1足の靴下を袋から引きます。青ですね。

そして会場の子ども1人に上がってもらい、もう一足引いてみると・・・同じ青です！しっかり当たりました！



おおとりは女の子2人。このマジックはかなり高度で、何度も何度も練習していました。

中に何も入っていない金具の筒を新聞紙でくるみ、おまじないをかけると・・・中からいろいろなものが出てきました！会場ビックリ！



最後は今回マジックを教わった田口先生も壇上でご紹介。たいへんお世話になりました。
みんなで一緒に「ありがとうございました！」



C:反省会、感想会

先生の「どうだった？」の問いかけに、「緊張した」「うまく行ってよかった」などの感想が。
子どもたちはやりきった表情をしていました。



⑥大会を目指せ！ヨーヨープログラム（講師:BLACKさん(石黒友也さん)）

・内容:ヨーヨー世界チャンピオンに弟子入り

(第1回)

A:プロのパフォーマンスを見る

先生が控え室で準備している最中から、子どもたちのテンションはMAX。ヨーヨーの世界チャンピオンが来るからです。プログラム開始早々、さっそく数種の技を披露です！



子どもたちの目は釘付けです。



興奮冷めやらぬ中、代表者がパフォーマンスのお手伝い。子どもたちも参加します。



さらに先生の技は続きます。すごい、の一言。これぞプロの技です。子どもたちの心はすでにBLACKワールドに驚掴みされたようです。



B: ヨーヨー教室開催、基本の技を伝授

子どもたちは自分でも真似したくてウズウズ。いよいよヨーヨーを手にする瞬間、ゲットするための整列も気合十分です。ヨーヨーの紐を指に巻きつけるのにもコツがあり、最初は先生にセットしてもらいます。



今日は手始めに基本となる3つの技にチャレンジです。

まずはじめに、下に投げ下ろしたヨーヨーをしばらく空回りさせた後で引き上げて手元に戻す基本動作です。基本動作ですが、手だけでなく膝を使うなど、体全体を使うのがコツです。



続いて犬の散歩、簡単バージョン。子どもたちはすっかり気に入ったようで、上手に習得していました。



3つ目はヨーヨーを持って後ろに引いた手を体の前に投げつけてキャッチするフォワードパスです。これは前でキャッチするのがなかなか難しい！女の子チームも先生から技を伝授してもらっています。



C:ヨーヨー耐久レース

3つの技を練習した後は、ヨーヨー耐久レースです。始める前に自主練習です。真剣！！



さあ、始めました。誰が一番長く続けられるでしょうか？

今日は最終的に2人が残り・・・決着が付かず、2人とも優勝！なんと1人は初の女の子！先生からパフォーマンスがぎっしり詰まったDVDのプレゼント。



D: さらにハイレベルなプロのパフォーマンス

最後に先生からもう一度パフォーマンスの披露です。技の数は無限大。何度見ても飽きません。



E: 大会を目指す人を募る

これから来年行われるヨーヨーの大会を目指して練習していきます。

「大会に出たい人ー？」の問いかけに、元気な返事が。目標があれば練習にも熱が入ります。



F: サイン会

最後にはやっぱりこの行列。



お馴染みになってしまったサイン会です。ちなみに熱心にヨーヨー研究をしているようで、本を持参している子どももいました！



(第2回)

A:準備、そして前回のおさらい

まずは自分のやりやすいようにヨーヨーの長さを調整します。目安はヘソの高さより10センチくらい上です。



そして、前回の基本技、「グラビティブル」。



B:新しい技への挑戦

今回の目標は下で空回りさせる「ロングスリーパー」です。

ヨーヨーを上に向けた状態で立ち位置より少し前を目掛けて勢いよく投げると、「ビーン」という音とともに下で空回りします！

さすが BLACK さん、ヨーヨーにまったくブレがありません。



子どもたちは、はじめは苦戦していましたが、コツをつかんだ子はできるようになりました。

後半には、今日が初めての子どもたちにも「できたー」の声が。噂を聞きつけて参加してきた子です。



C:さらなる応用編に挑戦

下で空回りさせた状態でゆっくり床につけると、ご存知「犬の散歩」です。

これも床につける加減が難しいのですが何人かはすぐにマスターしました。できるようになった子は目がキラキラしてとても印象的でした。



(第3回)

A:ヨーヨーの最近の動向

最初に BLACK さんからお知らせです。「みんな、コロコロコミックって読んでる？」

実は 12 月 15 日発売の「コロコロコミック 2010 年 1 月号」にハイパーヨーヨーの広告と記事が掲載されているとのこと。「すでに記事を読んだ！」との声もチラホラ。2010 年は小学生にもヨーヨーブームがやってきそうです！みんなはすでに技をマスターし、ブームを先取りでしょうか。



B:紐のつけ方、長さ調整

紐のつけ方や長さなどをきちんと調整することが上手に操れるかのポイントになります。再度確認。



C:前回のやさしい

基本の「グラビティブル」と、前回教わった下で空回りさせる「ロングスリーパー」を再マスターです。



日々練習を積んでいるベテラン勢もいます。それぞれ自主練に励んでいるのですが、みんないつの間にかとっても上手に！3回シリーズの間に、myヨーヨーをゲットし、たくさん練習してくれたそうです。



D: 自主練習

体育館の端で何やら盛り上がっている方に目をやると…？自分たちで率先して練習メニューを実践していました。



ジャンケンをして2つのチームに別れ、ヨーヨーをしながら壁タッチをして戻ってくるリレーゲームのようです。自分たちで考え出した楽しいゲームにはまったようで、何度も対戦していました。何でも遊びにできてしまうのが、子どものスゴイところですね。



E: 仮想ヨーヨー大会

「グラビティブル」と「ロングスリーパー」の2種目から1種目のみを選択して、挑戦します。得意な方に出演可能です。10分弱の練習タイムを経て、いざ勝負です。

まずはヨーヨーを上下させる「グラビティブル」から。一番長く続けられた人が勝利です。



なかなか勝負が付かず…BALCKさんの指示に従い、歩いて移動。
体育館の端に整列し、ステージまでダッシュ！！（もちろんヨーヨーはそのままです）
最後は2人まで絞られ、こちらもダッシュで決着をつけました。



続いて「ロングスリーパー」の勝負です。
こちらは少人数だったためオンステージです。誰が下で一番長くとどめていられるでしょうか？



こちらは、すぐに決着が付きまして！
2つの部門の優勝者は抱き合って大喜びです。（男の友情！！）
毎日ヨーヨーを練習し、「今日も絶対優勝する！」と力強い意気込みだったので、喜びも大変大きいようです。
また、惜しくも勝負に負けてしまった子も、悔し涙を浮かべ、次こそは！と闘志を燃やしていました。



F:大会案内

最後に、1月に行われる大会の案内がありました。チャレンジしてくれる子もいるのではないのでしょうか？



⑦プロアナウンサー体験プログラム（講師：フリーアナウンサー 青木真麻さん）

・内容：プロアナウンサーに弟子入り

（第1回）

A:先生の自己紹介

あこがれのアナウンサーを前に、子どもたちは少し緊張気味。



B:アナウンサーの基本、発声練習、早口言葉

はい！「生麦生米生卵！」

ちなみに子どもたちが持っている原稿の文字の大きさは結構大きいのですが、実際使っているものと同じだそうです。



「アナウンサーはお腹から声を出します。」
結構体力勝負なのです。



C:原稿作り

自分の自己紹介文にある、ブランクを埋めていきます。



まずは先生のお手本で、実際に読んでもらいます。
一同一気にシーンとなり、(当たり前ですが)「ウマイ！」の音が。
聞いているとわかるのですが、非常に聞きやすい。



D:子どもたちの原稿読みの練習①とAD役

では1人ずつ前に出てきてやってみましょう！
みんな緊張しながらも、しっかり読んでいました。



AD もしっかり板についています。
「5, 4, 3, 2」までカウントで「1, キュー」は声に出しません。



E:原稿読みの練習②

つづいて、難しい方「東京の天気」の原稿読みの練習。



F:カメラの前で原稿読みの挑戦

いよいよ通してカメラの前でやってみましょう！

ライトもマイクも、そしてネームプレートも用意して本番さながらです。緊張感があります。



ちなみにカメラにはこのように写っています。



G:最後にもう一度先生のお手本

AD も年季が入ってきました。

最後に先生からのアドバイス。

「天気予報は暗くやっているアナウンサーはいません。でも明るすぎず。少し明るいくらいの感じで原稿を読みましょう！」



(第2回)

A:発声練習と早口言葉

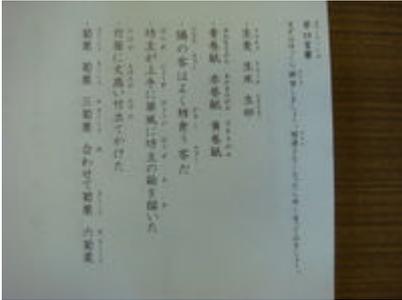
「あえいうえおあお」「みゃめみむゆめめよ・・・」

子どもたちの元気な声が教室をこだまします。



それから定番の早口言葉。

「となりのきゃくはよくかきくうきゃくだ」「たけやにたてたかい、たけ、たけ、たてかけた！」



B:先生のお手本

まずは先生のお手本から！！うまいです。

普段テレビから聞こえてくる声ですぐそこにあるので
なんだか不思議な感覚でした。



C:実際の原稿読みにチャレンジ

今回もみんなの前で発表です。そうになるとみんな徐々にそわそわします。

自分の席で必死に読み練習する子。家で何回も練習したからか余裕そうな子。

さて本番！天気予報をしっかり伝えてね！カメラにはしっかりカメラマンがついて「54321」でキューを出します。



「今日の東京のお天気は・・・」これがみんなうまい！落ち着いています！
みんなたくさん練習してきたのか、すらすら読み進めます。



D:ビデオで確認

他人に自分の声がかう聞こえるんだってわかったとたん耳を塞ぐ子も。

予想してた自分の声と違ったみたいで恥ずかしかったみたいです。

ここで青木さんが一人一人にコメント。

「堂々としてよかった。」「ちゃんと前向いてたのがよかった。」「声が出てたね。」

などプロからのありがたいお言葉。

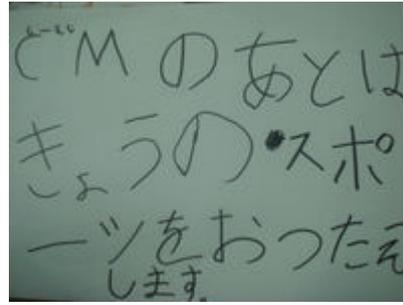


E:アナウンサー応用編

今度は二人前にてアナウンサー役に、そしてもう一人はカンペ出し役に。

この後も番組は続くという設定で、カンペに次の内容を書き込みます。

カンペにどんなことを書こうか悩むみんな。



「続いては今日のお天気です」と左の子からのパスが
「はい。今日のお天気は…」と右の子へつながります。



原稿を読み終わると視線を原稿からカメラのほうに移し、カンペを確認。



F:最後にビデオで最終チェック

原稿を読み終えた子が原稿を読んでいる子を凝視している姿。ふらふらしてる姿。

みんな映っていますよ！

最初は恥ずかしそうに読んでいた子も最後のほうは堂々としたアナウンサーになっていました。



G:まとめ

「読むのが成功したときが楽しかった」「簡単だった」

など意見は多数。しかし総じてみんな楽しく学べたようでした。

また「将来アナウンサーになりたい」という子も。ぜひその夢を叶えてほしいですね！

今回のアナウンサープログラムの目標「天気予報のコーナーを担当すること」大成功でした！



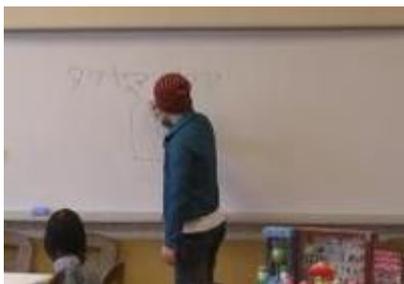
⑧放課後キャラクターコンテスト（講師：イラストレーター タケヤマノリヤさん、小石川ユキさん）

・内容：プロイラストレーターに弟子入り

（第1回）

A:先生自己紹介

まずは自己紹介から。ホワイトボードに名前を書き、早速キャラクターも描いてくれました！！子ども達からは「かわいい～！！」の声が上がります。



小石川先生の描いた猫の絵は子ども達に大好評でした！！



そして、先生方のデザインしたキャラクターの紹介です。

色んなキャラクターを紹介するたびに、「かわいい～！」の声があがります。

中には「これ知ってる～！」という声もありました。

この作品ラインアップに子どもたちは食いつきます。



B:オリエンテーション

さて今日から 3 回にわたってキャラクターを作っていきます。

第一回目の今日はこのような道具を使います。さあ、これでどんなキャラクターが出来るのでしょうか??



先生の説明と例です。

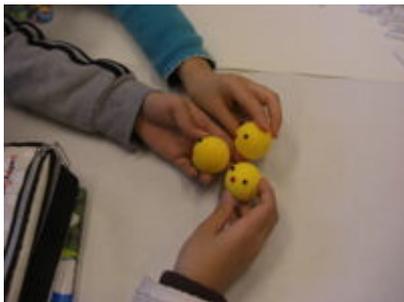


C:キャラクター作り

発砲スチロールの球に目のかわりのピンを刺すだけでなんとなく顔っぽくなります。それに、口や手、足などを付

けていってあげましょう。そして、キャラクターに名前を付けて性格も考えます。

キャラクターたちの挨拶がはじまりました。「こんにちは！」「～なんだよ。」「～ですか？」と会話が始まります。



また、手やしっぽ、触覚を付けると・・・同じ素材で作ってるのに、みんなそれぞれ個性が出てきます。

右の作品は、「ふつつかものですが」のふーちゃんだそうです。足はちゃんと正座しています。



D:キャラクターの設定をする

それぞれ全然違うオリジナルキャラクターが出来上がったところで、キャラクターの名前・性格・生まれた場所・住んでいる場所・性別・友達はどうな子か・大きくなったらどうなるのかを考えていきます。

みんながつけた名前をいくつか紹介。

「ちょろりん」「クローバー（近くにあったポンドの名前が「クローバー」だったから）」「いちごうさぎ」「プール君（大きくなると体が青くなるから）」「ネコころりん」「くまころりん」



そしてキャラクターが大きくなったときの絵を描きます。

こちらは「かとーる」。このキャラクターは蚊取り線香が頭について、いつも飛びながら蚊を食べるそうです。大きくなるときれいな羽を持つそうです。その羽は・・・血を吸った蚊を食べるので、赤い色が主だとか・・・。



みんなたくさんの発想が出てきます。

中には、2つのキャラクターがお互いを飲んで暮らしていて、その為にストローが命よりも大事で、取り合いになることもあるというキャラクターも。



D:まとめ

タケヤマ先生からは「今日作ったキャラクターをとっておいてね」、小石川先生からは、「毎日絵を描くこと！子どもの頃に毎日毎日絵を描いていたことが、今も役に立っていて、最終的にこういうお仕事に就くことができました！」とお言葉をいただきました。



(第2回)

A:自己紹介(再)と本日のお題

まずは、今回も先生の自己紹介から。みんな先生の名前覚えてるかな？

今回も名前と絵を描いてくれました！！

今回は、食べ物のキャラクター『タベモン』を作ります。



B:ラフスケッチ

タケヤマ先生から「紙にいっぱい絵を描きましょう。それに顔や手足を付けてみましょう。」

それをラフスケッチと言うそうです。また、すぐ絵に出来ない場合は、言葉をメモするといいそうです。



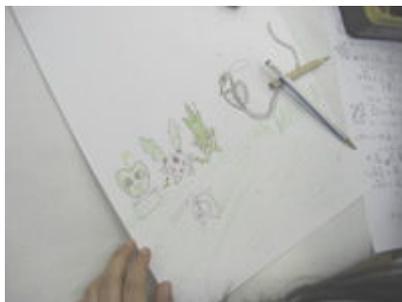
子どもたちが描き始めました。これはクサヤだそうです。



家ですでに考えてきてくれた子もいました！！



好きな食べ物を描く子、嫌いな食べ物を描く子、図鑑を見ながら描く子、キャラクターの顔が全部ドラゴンボールになっていく子、さまざまです。



たくさんの個性豊かなキャラクターが出来てきました。嫌いなものだからちょっと意地悪な子もいます。



C:清書

タケヤマ先生が本を使って実際にキャラクターが商品になっている例を説明をしてくれます。
キャラクターのカードやガチャガチャ、たまごっちなどすごい数が売れているそうです。
カードは80億万枚以上売れているとか。



今度はさっき紙いっぱい描いた絵の中から気に入ったものを2枚目の紙に描いていきます。これを「清書」と言うそうです。「絵は消さないでください！」との事。
あとで見て、いいキャラクターが作れたりもするそうです。
清書をしながら名前や性格や住んでいる場所も考えていきます。



子ども達はみんな「見て見て！！」と言いながら、考えたキャラクターを見せてくれました！！



D:まとめ、次回予告

あっという間に終わりの時間が近づきます。

子ども達はまだまだ描き足りないようですが一旦おわりです。

タケヤマ先生から「来週はタカラトミーの方に来てもらいます。キャラクターをどんな商品にしたいか考えておいてください。」とのこと



(第3回)

A:自己紹介(再)と審査員紹介

もうおなじみの「タケヤマノリヤ先生、小石川ユキ先生」。



そして今回は、審査員としてたくさんの方が来て下さいました。

今日はみんなの作品を見てくれます。



審査員の中にはリカちゃん人形のデザインをしている方もいて、リカちゃん人形を持ってきてくれました。

「あれ持ってるよ!」という声が。やっぱり女の子はリカちゃん人形を持っている子が多いです。



B:オリエンテーション

今日は、具体的にどんな商品にしたいかを考えます。

たとえば、前回考えたキャラクターを、どんな商品にして友達あげたいかなどを考えます。



C:商品化のアイデアを出してみる

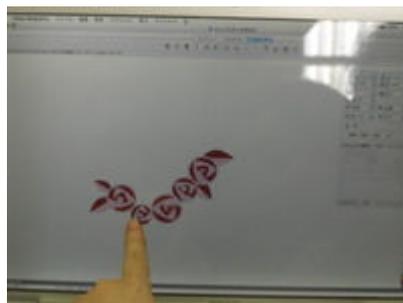
みんなはじめはなかなか手が動きませんが、「ぬいぐるみかな？ストラップかな？」と話しているとどんどんアイデアがあふれてきました。



D:PCを使っでのイラスト作成

今回、小石川先生がパソコンを持ってきてくれました。今はパソコンでイラストを作ることも多いそうです。

丸や三角を組み合わせるとこんなかわいい絵が出来ます。それをまたコピーして重ね合わせていくいろいろなところで使えるようになります。



パソコンだと色も変えやすいし、ムービーも作れるそうです。



E:子どもたちの作品紹介

今回子どもたちが考えた作品をいくつか紹介します。

これはきのこのこの形をした無農薬くんのプランターです。無農薬で花などを育てるそうです。



こちらの右上のものはちょっとブラザーで、イヤホンになっています。そしていちごずきんが ipod になっているそうです。



そして、こちらはオムライスの形をした筆箱で、さまざまな文房具が入っているそうです。



F: 審査員と先生からのコメント

今回、本当にたくさんのアイデアが生まれました。子ども達は休憩もせずに絵を描き続けて、楽しそうでした。

そして、審査委員の方にコメントをいただきます。それぞれ気になったキャラクターを発表して頂きました。

小石川先生は「今回の内容は難しかったと思います。」とおっしゃっていました。

今回3回にわたってやった内容は、実際に小石川先生が5～6年前に習った内容だそうです。

普段は大人がやることをやっていたのですね。そしてこれらは、プロがキャラクターを作る過程でもあるそうです。

タケヤマ先生は「これからもたくさんキャラクターを描いて、物語を作っていってほしい。」

とおっしゃっていました。

G: プレゼントとサイン会

タケヤマ先生と小石川先生から子どもたちへ素敵なプレゼント。子ども達は大喜びです！！



最後はやはりサイン会となっていました。



③放課後キャラクターコンテスト

2010. 2. 10
 第1回  ボールを使ってオバケを
 作る！
 ☆ 名前を考えよう！
 ☆ どうゆう子なのかな？
 ☆ どこで生まれたのかな？
 ☆ どこに住んでるのかな？
 ☆ 男の子かな？ 女の子かな？
 ☆ 家族や友だちはいるのかな？
 それほ、どんな子なのかな。
 ☆ 大きくなったら、どんな姿になるのかな？
 絵に描いてみてください。

2010. 2. 17
 第2回 キャラクターをつくろう！ 教室  
 ☆ 食べ物のキャラクター = タバモンを描こう
 ☆ まが1枚の紙にたくさんのおかきまを
 しよう！ これを「うす紙」をいいます。
 ☆ 考えたこと、思ったこと、絵にすぐ出せば
 ことは、言葉でメモしよう！
 これを「アイデア出し」といいます。
 ☆ 好きな食べ物の「好きな食べ物の」
 を、たくさん描いてる。
 <ポイント> ① 描いた食べものに手や足、顔を
 つけよう！
 ② 食べ物の動物を合わせて描いてみよう！
 ☆ 2枚目の紙に  
 1枚目で描いた中で気に入った
 「タバモン」を選んで描きましょう！
 ☆
 これを「清書」といいます。
 2010. 2. 17
 Hakeyama

第三章 効果・成果と考察

1. 効果・成果

以下の4つの観点から、本事業にあたっての効果・成果があったと考えられます。

(1) 高学年の参加がゼロから数名へ

放課後事業における活動で、高学年になるにしたがって参加率は低くなっていくことは今回の事業の対象となっている世田谷区も例外ではありません。

<学年ごとの延べ参加児童数(全64小学校)>

新BOP参加状況(平成20年度)

学校番号	学校名	児童数(A)	学年ごとの申込者数(B)						小計(除)	申込率(B/A)	実施日数(C)	
			1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生				
1	若林	213	32	29	35	34	20	21	171	0	80%	293
2	三宿	204	24	37	30	35	28	27	181	9	89%	293
3	東大原	322	54	49	47	56	52	54	312	10	97%	293
4	太子堂	392	64	56	61	50	33	27	291	0	74%	293
5	桜	454	82	68	48	64	35	10	307	0	68%	293
6	桜丘	845	97	123	137	100	63	53	573	0	68%	293
7	代沢	258	54	38	49	37	43	38	259	0	100%	293
8	守山	150	30	16	25	28	12	20	131	0	87%	293
9	多聞	344	79	59	62	50	49	39	338	0	98%	293
10	世田谷	159	19	31	20	28	23	20	141	22	89%	293
11	松沢	728	107	99	93	95	47	1	432	4	59%	293
12	駒沢	331	63	57	56	39	44	18	277	0	84%	293
13	旭	417	76	63	46	53	24	27	289	16	69%	293
14	中里	180	35	33	22	20	35	36	181	0	101%	293
15	松原	559	80	115	102	80	84	70	513	0	95%	293
16	北沢	154	30	20	27	22	20	24	143	0	93%	293
17	上北沢	390	57	55	42	50	40	20	264	0	68%	293
18	駒沢	380	42	60	61	85	68	64	380	0	100%	293
19	池之上	316	48	42	45	59	35	39	268	0	85%	293
20	経堂	686	117	107	110	88	64	74	560	26	82%	293
21	荻巻	796	33	112	96	78	82	79	480	8	60%	293
22	山崎	354	48	85	67	31	35	16	282	6	80%	293
23	中丸	529	93	98	80	77	62	54	464	0	88%	293
24	代田	290	41	61	41	45	35	38	261	0	90%	293
25	三軒茶屋	307	57	50	42	43	41	20	253	0	82%	293
26	赤塚	544	86	93	99	80	91	53	502	0	92%	293
27	松丘	868	123	146	125	95	64	60	613	0	71%	293
28	池尻	323	61	41	46	57	40	20	265	0	82%	293
29	笹原	361	59	64	61	53	27	20	284	0	79%	293
30	花見堂	115	13	28	13	17	13	12	96	0	83%	293
31	城山	364	53	79	69	51	44	35	331	0	91%	293
32	深沢	592	96	85	106	99	57	74	517	0	87%	293
33	玉川	718	116	102	77	82	41	35	453	0	63%	293
34	京西	437	75	77	75	72	65	72	436	0	100%	293
35	二子玉川	549	94	89	103	80	56	68	490	0	89%	293
36	八幡	397	54	59	83	64	63	74	397	0	100%	293
37	奥沢	341	55	49	50	53	55	25	287	3	84%	293
38	尾山台	454	64	61	81	72	52	63	393	17	87%	293
39	東深沢	556	95	97	85	63	56	31	427	0	77%	293
40	東玉川	424	68	80	70	59	66	58	401	0	95%	293
41	桜町	795	114	119	102	97	77	43	552	11	69%	293
42	九品仏	176	26	23	25	38	31	33	176	0	100%	293
43	瀬田	522	75	88	95	80	77	55	470	0	90%	293
44	等々力	573	82	104	104	85	80	79	534	0	93%	293
45	用賀	876	134	155	159	121	119	143	831	0	95%	293
46	中町	290	46	37	65	26	19	20	213	0	73%	293
47	玉堤	434	79	55	59	71	48	62	374	0	86%	293
48	島山	516	70	90	71	54	30	20	335	20	65%	293

49	塚戸	863	143	159	150	139	141	125	857	0	99%	293
50	祖師谷	545	99	75	85	63	42	39	403	6	74%	293
51	砧	339	44	31	47	45	44	53	264	0	78%	293
52	明正	897	124	123	128	151	168	147	841	11	94%	293
53	鳥山北	573	79	88	89	88	37	13	394	0	69%	293
54	八幡山	499	88	83	72	56	42	36	377	0	76%	293
55	芦花	584	93	85	97	79	81	70	505	0	86%	293
56	船橋	591	104	116	106	91	48	28	493	0	83%	293
57	砧南	910	143	127	117	100	56	45	588	0	65%	293
58	給田	771	125	133	135	125	112	103	733	0	95%	293
59	山野	892	141	145	130	119	59	51	645	0	72%	293
60	千歳	863	118	125	141	145	139	170	838	0	97%	293
61	喜多見	646	123	84	89	77	45	38	456	0	71%	293
62	武蔵丘	373	50	65	65	43	35	30	288	0	77%	293
63	希望丘	192	41	21	31	19	18	11	141	0	73%	293
64	千歳台	514	91	104	129	36	25	28	413	0	80%	293
合計		31,035	4,806	4,948	4,868	4,292	3,437	3,031	25,382	169	82%	18752

※ 児童数は19年5月現在、申込者数は20年3月現在です。
 ※ (除)は障害のある児童で、特別支援学校在籍者数です。

《新BOP導入校》

- 11年度(4校) 東玉川・玉堤・芦花・給田
- 12年度(13校) 三宿・守山・多聞・世田谷・駒沢・旭・松原・駒沢・荻巻・山崎・桜町・祖師谷・武蔵丘
- 13年度(13校) 太子堂・桜丘・中丸・代田・松丘・池尻・城山・深沢・玉川・京西・東深沢・瀬田・用賀
- 14年度(13校) 若林・桜・代沢・松沢・赤塚・花見堂・二子玉川・尾山台・九品仏・塚戸・砧・山野・千歳
- 15年度(10校) 中里・北沢・上北沢・池之上・三軒茶屋・八幡・奥沢・鳥山・鳥山北・喜多見
- 16年度(9校) 東大原・経堂・笹原・等々力・中町・明正・八幡山・希望丘・千歳台
- 17年度(2校) 船橋・砧南

「平成20年度新BOP参加状況・世田谷区教育委員会」より

全体 1,215,667名

4年生 84,511名(7%)

5年生 44,434名(3.7%)

6年生 36,126名(3%)

プログラムにおいては、学校によって4年生以上の参加がゼロというところも少なくありません。今回の事業において高学年にとって魅力的なプログラムを用意することで、以下のとおり高学年の参加が見られました。新BOPの参加児童数の割合と比べても効果は見られます。

『FC 東京さんのサッカー教室』*FC 東京

6/10(水)松原小学校:全51名参加。うち高学年11名(21%)。
11/25(水)代田小学校:全39名参加。うち高学年8名(21%)。
12/2(水)花見堂小学校:全32名参加。うち高学年6名(19%)。

『日本初の女性狂言師による狂言入門』*女性狂言師)三宅藤九郎

6/17(水)代沢小学校①:全47名参加。うち高学年8名(17%)。
6/24(水)代沢小学校②:全26名参加。うち高学年6名(23%)。
1/13(水)池之上小学校①:全15名参加。うち高学年2名(13%)。
1/20(水)池之上小学校②:全12名参加。うち高学年2名(17%)。

『熱狂のマンガプログラム』*オシャレ魔女ラブandベリー作者)溝口涼子

7/1(水)代田小学校①:全50名参加。うち高学年9名(18%)。
7/8(水)代田小学校②:全51名参加。うち高学年9名(18%)。

『大会を目指せ!ヨーヨープログラム』*BLACK(石黒友也)

10/7(水)池之上小学校①:全29名参加。うち高学年8名(28%)。
11/18(水)池之上小学校②:全25名参加。うち高学年5名(20%)。
12/16(水)池之上小学校③:全22名参加。うち高学年4名(18%)。

『プロアナウンサー体験プログラム』*フリーアナウンサー)青木真麻

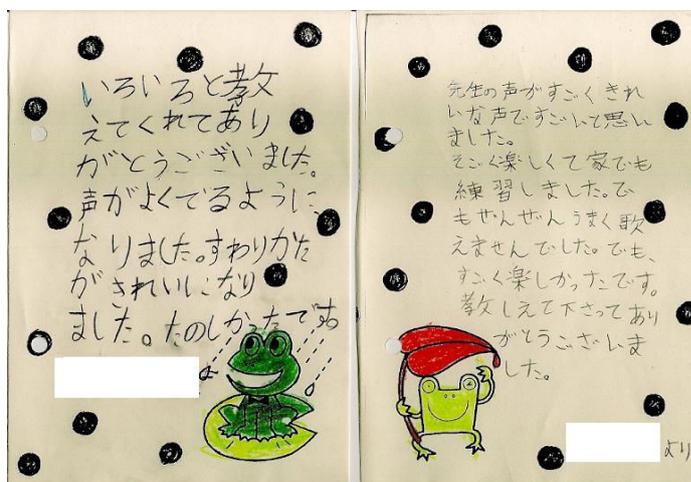
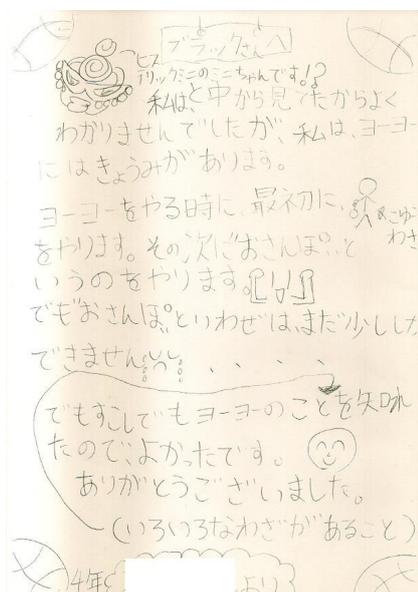
11/25(水)池之上小学校①:全16名参加。うち高学年4名(25%)。
12/2(水)池之上小学校②:全16名参加。うち高学年4名(25%)。

『放課後キャラクターコンテスト』*タケヤマノリヤ、小石川ユキ

2/10(水)花見堂小学校①:全32名参加。うち高学年4名(13%)。
2/10(水)花見堂小学校②:全30名参加。うち高学年4名(13%)。
2/10(水)花見堂小学校③:全31名参加。うち高学年4名(13%)。

(2)子どもからの感想文、現場スタッフからのヒアリングなど

・プログラム後の感想文から、子どもたちに普段接することができない魅力的な大人と放課後プログラムを通じて出会い、弟子入りすることで本当に自分が好きなことや夢中になれることを発見した子も見受けられました。
(左は「大会を目指せ!ヨーヨープログラム」、右は「日本初の女性狂言師による狂言入門」からの感想文)



・また、普段子どもたちを預かる現場スタッフへのヒアリングで、「カッコイイ大人と接点を持つことで大人に対して尊敬の念を持ち、「将来先生のようにになりたい」と繰り返し言っていた子どももいた」という意見が聞かれました。

・一方で当初予期していなかった効果として、教えに来た大人が子どもの前で自分のキャリアや特技を披露することで、自分を棚卸しし、新たな発見や子どもに元気をもたらって帰っていく姿が多くありました。

(3)子どもの変化(エピソード)

・あまり馴染みのない狂言のプログラムで、先生である三宅藤九郎さんが「私は3歳から舞台に立っている」というお話を聞き、日本の伝統芸能のすごさを知ったのか、自分の2回目の発表に向けて一生懸命小謡「兎」を練習し出し、立ち振る舞いも急に舞台上立つ人間のようにになりました。

・オシャレ魔女ラブandベリーの大ファンだった高学年の女の子が、作者である溝口さんがやってきてマンガの描き方を教えてくれるということで、大興奮の中、プログラムに参加しました。プログラムの中で、密かに描き続け練習していた自分のマンガをほめられて、将来先生みたいな漫画家を目指したい！と話してくれました。

・普段何もせず、グウダラに放課後を過ごしていた4年生が、BLACKさんのヨーヨーパフォーマンスを見てヨーヨーにのめり込み出しました。それ以来、次のプログラムを迎えるまでほぼ毎日放課後にヨーヨーを触り、練習し、大会を目指すことになりました。

・将来の夢が「アナウンサー」という高学年の男子。1回目のアナウンサー体験のプログラムに参加し、実際に先生のお手本を聞き、そのすごさに衝撃を受けていました。2回目、天気予報読みの発表の時、非常に落ち着いた感じでうまく読んでいました。後から、彼はいつも原稿を持ち歩いて練習していたという話を現場スタッフより聞きました。

・イラストレーターやクリエイターになりたいという高学年組みが3名、イラストレーションのプログラムに参加。普段は全くと言っていいほど放課後の活動には参加しないが、プロのイラストレーターさんが来ると言うことで、塾を休んでの参加し、キャラクターができるまでを非常に楽しそうに学んでいました。

(4)メディア

本事業における放課後弟子入りプログラムの開催は、子どもたちの放課後自体がいま世間から注目されているという風潮もあり、多くのお問い合わせをいただきました。その中でもメディア(時事通信社)からの取材は本取り組みへの注目度を証明し、また全国への情報発信の良い機会となりました。

・時事通信社の取材。

・時事通信社の配信から地方紙(左:福井新聞2009/07/11、右:河北新報2009/07/14)への掲載。



もっと参加率は上がるのではないかと考えられます。従ってあらかじめある程度の高学年のスケジュールを把握し、前々から日程を設定しておく対応が必要かも知れません。

・特に高学年に対して、魅力的なプログラムであることをチラシやポスター、現場スタッフからの口コミなどを使って十分告知する必要があると考えます。

・普段子どもたちと接している現場スタッフだけで作るプログラムには限界があるため、外部の企業や団体、個人の方と交渉し、魅力的なプログラムを作り、コーディネートする“コーディネーター”が放課後に必要である場合があると考えます。

以上